

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02909

研究課題名(和文) 小中学校に設置された病弱・虚弱学級の実態に関する研究

研究課題名(英文) Research about the classroom for health-impairment children established by elementary and junior high schools

研究代表者

小畑 文也(OBATA, FUMIYA)

山梨大学・大学院総合研究部・教授

研究者番号：20185664

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究の初期段階においては、小中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級といわゆる院内学級との間で、その在籍児童・生徒の実態、教育環境に相当の違いがみられた。具体的には、小中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級では児童・生徒は健康児の中で孤立した存在。保護者は日常性の中にいる、教師は学校内で独自の立場にあること。院内学級においては慢性疾患児同士の仲間関係にあること。保護者は危急の状況にあること。教師は相互に学びあう関係にあることが大きな違いであった。しかしながらそれぞれの教師が必要とする資質は同じであり、今後、これらを押さえた研修を行っていくことが重要であると思われる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前戦後を通して、病弱教育の片方の柱であり続けてきた病弱虚弱特別支援学級であったが、特に小中学校に設置された学級は、都道府県により扱いが異なること、全国的な組織が形成されなかったことから、その教育方法、位置づけ、特色等、ほとんど研究されてこなかった。単に研究がないというだけではなく、インクルーシブ教育を考えると、「小中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級」の設置を進めるためにも重要な位置づけを持った研究であると思われる。

研究成果の概要(英文)：In the early stages of the study, there were significant differences in the reality and educational environment of the children and students enrolled in the sick and physically weak special support classes set up in elementary and junior high schools and the so-called hospital classes. Specifically, in the sick and physically weak special support classes set up in elementary and junior high schools, the children and students were isolated from the healthy children. The parents were in the midst of everyday life, and the teachers had a unique position in the school. In the hospital class, the children with chronic diseases had a close relationship with each other. The parents were in a critical situation. The teachers were in a relationship of mutual learning. However, the qualities required of each teacher are the same, and it is important to conduct training that focuses on these in the future.

研究分野：特別支援教育

キーワード：病弱教育 病弱虚弱特別支援学級 テキストマイニング 機関連携

1. 研究開始当初の背景

我が国において「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」は、その存在が曖昧であると共に、病弱教育における位置づけも明確ではない。同じ病弱虚弱特別支援学級でも病院内に設置された場合はいわゆる「院内学級」として、その設置はほぼ恒久的であり、メディア等への露出も多く広く知られた存在である。反面「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」は児童生徒の病状変化により、設置されたり解消されたりすること、また設置基準が明確ではないため、都道府県により、設置のない県、少数設置の県、40 学級以上の多数設置の県等とその現状は多様である。このような状況であると、まず、教員の専門性の向上も難しいこと、設置場所等により機関連携が困難になること等様々な問題が生じており、研究代表者もこの点については過去の研究を通じて警鐘を鳴らしてきたが、「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」は教員の異動も頻繁であり、問題の共有と維持にはなかなか至っていない。

2. 研究の目的

病弱児の教育の場として明確に規定されているものの、その存在が不安定であり、また、孤立しがちで、一般にはよく知られていない「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」について、その実態を明らかにする 児童・生徒、教員、保護者のそれぞれが抱える課題点について明らかにする 学級そのものが持つ課題を明らかにする 「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」担当教員のコンピテンスを明らかにする 以上の4点を主たる目的とした。

3. 研究の方法

当初全国の「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」をまわって、インタビュー調査を実施する予定であったが、折からの COVID-19 の世界的な感染拡大により、調査者の移動や対面調査が困難になるとともに、もとより免疫力が低い児童・生徒が在籍する「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」は通学して来る子供も少なく、多くは「開店休業」の状況となった。一斉の質問紙調査も考えたが、「小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級」は単年度担当が多く、これも適した方法ではなかった。

そこで、研究者が知りえる範囲で、教員が複数年度担当していること、COVID-19 感染拡大期においても、ある程度の登校がみられること等を条件に、主に自由記述を中心とした質問紙調査を行い、その結果は ODB ソフトを用い、入念に分析した。

4. 研究成果

研究の初期段階においては、小中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級といわゆる院内学級との間で、その在籍児童・生徒の実態、教育環境に相当の違いがみられた。具体的には、小中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級では児童・生徒は健康児の中で孤立した存在。そして彼らの目は健康な子供に向く。保護者は日常性の中におり、帰るのは家である。教師は学校内で多くの場合は一人で独自の立場にあること。

院内学級においては慢性疾患児同士の仲間関係にあり、彼らの目は同じく入院している子供に向く。保護者は危急の状況にあり、子供と常に一緒にいることはできない。教師は小集団ながらも相互に学びあう関係にあることが大きな違いであった。

このように、その置かれた状況が相当に異なることが明らかとなってきたので、2022 年度の研究では、それぞれの教育の場において、教師自身が考える、資質(コンピテンス)の違いについて、調査研究を行った。病院内に設置された病弱虚弱特別支援学級の教師、約 20 名と小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級の教師約 30 名を対象として、藤井(2010)による教員資質能力自己評価尺度をもとに、病弱教育独自の資質を加えた 35 項目であり、大事だと思われる資質を第 3 位まで抜き出す抽出法により調査を実施した。この結果、病院内に設置された病弱虚弱特別支援学級の教師と、小中学校に設置された病弱虚弱特別支援学級の教師との間では重要と考える資質(コンピテンス)に差はみられなかった。先述したように、その教育の場の現状が異なることから、考察は困難であったが、「障害に配慮した指導ができる」、「チームティーチングにおける役割分担の重要性を理解し、連携・協力ができる」、「主な病気について基礎的な知識と対処や健康管理ができる」、「心理的ケアや二次障害について、知識・技術を持っている」は双方において重視されている資質であった。これらの資質は、病院内に設置された病弱虚弱特別支援学級の教師の方が相対的に高いと思われるものであるが、「共通に重視しながらも、求めてい

っても到達点が見えない」資質であると考えられた。今後双方の研修においては、これらの資質の向上を目的とすることが重要であると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小畑文也	4. 巻 32
2. 論文標題 山梨県内の小・中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級に関する研究－児童・生徒の指導上の困難点を中心とした検討－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小畑文也・田中澗・米谷文直	4. 巻 15
2. 論文標題 山梨県内の小・中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学校の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山梨障害児教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小畑文也
2. 発表標題 小中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学級について 児童・生徒の指導上の困難点を中心とした検討
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小畑文也 田中澗
2. 発表標題 山梨県内の小・中学校に設置された病弱・身体虚弱特別支援学校の現状と課題
3. 学会等名 日本育療学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------